

7月22日の日食情報

Vol.4 ~ 日食の観察方法・その2 ~

7月22日にはトカラ列島や屋久島など、国内の一部の島で皆既日食が見られます。皆既日食自体は、肉眼でも観察できますが、ここ府中など全国で見られる「部分日食」については、欠けていると言っても、太陽面を直接みることとなりますので、強烈な太陽光で目を痛めてしまいます。

前回は、この光を弱めて(減光して)観察する方法をご紹介しましたが、今回は、太陽光を投影して(映して)観察する方法をご紹介します。

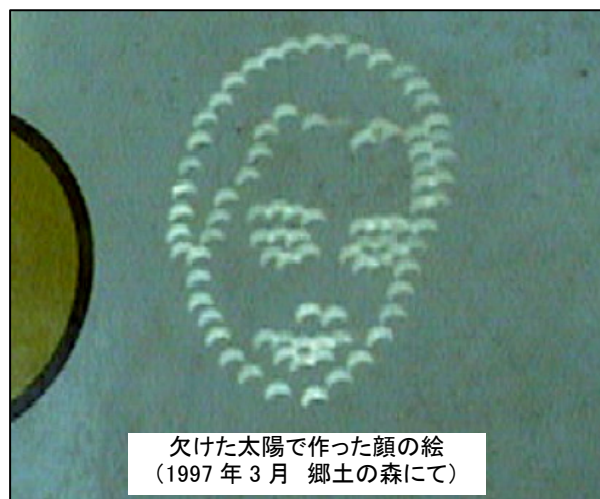
●木漏れ日に注目してみよう！

ピンホールカメラという仕組みをご存じでしょうか。小さな穴を通った光は、その先で、まるでカメラのように像を映し出すのです。ピンホールカメラは、このしくみを利用すると、部分日食中の「欠けた太陽」を観察することができるのです。

例えば、「木漏れ日(こもれび)」を見てみましょう。葉と葉の小さな隙間を太陽光が通り抜けてくるので、地面には欠けた太陽が写るのです。木漏れ日でなくても構いません。何かの穴を通過した光は、欠けた太陽を写し出すことでしょう。右上の写真では、イスの背もたれにある3つの「穴」を通過した光によって、細く欠けた太陽が写っています。

このほか、画用紙など光を通さない紙に穴を空け、これで太陽光を映し出すと、欠けた太陽によって文字や絵を映し出すこともできます。みなさんで工夫して、トライしてみてください。

●望遠鏡に太陽投影板をつけて観察する



望遠鏡に専用の投影板を付けて、太陽を投影すると、欠けた太陽を大きく映し出して観察することができます。また複数人でも一緒に楽しむことができ便利です。ただし、投影板は専用のものを使わないと危険ですので、各望遠鏡メーカーにお問い合わせください。また、投影板をによる観察方法には向かない望遠鏡も多くありますので、ご注意ください。

また、望遠鏡を使用した場合、投影法以外の方法、例えば**太陽を直接見るなどは大変危険**ですので、絶対にしないでください(望遠鏡用に特別に作られたフィルターを使用する等は、必ず専門家の指導の下で行ってください。)

次回は、府中における部分日食の見え方についてご紹介いたします。